

芸術科「美術 I」授業実践紹介

授業者：小川 明彦

学 年： 1年

単元名：コラージュ（貼り絵）で描くカレンダー制作

単元のねらい（7つのチカラ：考える力 行動する力）

自作の色紙を使用しコラージュの技法で表現することにより、独創的な表現を探究し、考える力を養う

単元の流れとパフォーマンス課題

① アイデアスケッチ[2時間]

自分の選んだ月にマッチした図柄（風物詩）と文字のデザインを考える。

② 自作色紙の制作[2時間]

使用画材（和紙、クレヨン、水彩絵の具、4色マーブリング）。

③ コラージュによる制作[4時間]

自作色紙でパーツを作り黒画用紙の台紙に貼っていく。

④ カレンダー部分の制作[1時間]

カレンダー部分に曜日、日にちとともに図柄を描く。（水性ペン、色鉛筆）

⑤ 制作のまとめ[1時間]

相互鑑賞し、制作のまとめを書く



コラージュ（貼り絵）制作



鑑賞会



生徒作品

パフォーマンス課題の評価

	2	1	0
アイデアスケッチ	文字と図柄を効果的に構成し季節感を表現出来ている	文字と図柄（風物詩）の構成が出来ている	文字と図柄のどちらかが入っていない
色紙の制作	画材の特徴を生かした個性的な色紙が出来ている	コラージュに必要な枚数の色紙が出来ている	コラージュに必要な色紙が出来ていない
鑑賞・制作のまとめ	自分の制作の振り返りとともに、友人の作品の良いところを発見出来ている	次の制作に生かせる自分の制作の振り返りが出来ている	自分の制作の振り返りが出来ていない

単元を通して身につけてほしいこと

実践の背景

今まで基本的な絵画の表現方法やデザインでは効果的な色彩構成を学習してきたが、それらをふまえながら、より作品全体のバランス考えて制作し表現方法の伸長が図られるように試みた。

また、鑑賞・まとめにおいては自分の作品の振り返りに加えて、友人の作品の良いところを見つける項目を設けた。自分とは違う表現方法や価値観にも共感したり、受け入れる事の出来る考え方を養いたいと考えた。

生徒の変容

1学期の絵画作品、2学期前半のデザイン作品に比べると、コラージュによる制作は絵画とデザインを融合した表現方法であり、コラージュという色紙を切って貼る、また色紙作りも色々な画材を使用することにより、より多様な表現が生まれやすい制作方法であった。生徒個々の作品も毎時間の変化が大きく新鮮な気持ちで、また粘り強く制作することでより深く考え行動する力がついたと感じている。

授業改善のアプローチ

多くの美術の課題では、表現技術の能力により作品の良し悪しが決まりがちである。今回の課題においてはただ描く作業だけでなく、制作の過程に多様性を持たせアイデアスケッチでは（発想性）、色紙作りでは（表現の多様性）、鑑賞では（制作の振り返りと他者理解）と個々の生徒が制作において多様な自分表現に取り組めるように工夫した。

評価

制作状況（20%） 作品（発想、表現 60%） 作品振り返り（20%）